

「校内農業クラブ員が農業クラブを理解し、 一丸となって活動を盛り上げていくためには どのようにしたらよいか」

九州ブロック連盟 鹿児島県立市来農芸高等学校
生物工学科3年 濱田 一期
生物工学科3年 鮫島 功丞

1 はじめに

(1)九州学校農業クラブ連盟の紹介

九州学校農業クラブ連盟は昭和33年10月に熊本県と沖縄県を除く九州6県で「九州ブロック予選会」をしたのが始まりです。その後、昭和34年に熊本県、昭和47年に沖縄県が連盟に加入し、現在に至ります。

今年度の各県連事務局校は大分県立三重総合高等学校、宮崎県立高鍋農業高等学校、沖縄県立中部農林高等学校、福岡県立久留米筑水高等学校、長崎県立島原農業高等学校、佐賀県立佐賀農業高等学校、熊本県立芦北高等学校、鹿児島県立鶴翔高等学校です。

クラブ会員数は、大分県1,043名、宮崎県1,983名、沖縄県2,045名、福岡県2,485名、長崎県1,975名、佐賀県1,314名、熊本県3,015名、鹿児島県1,560名、総勢15,420名と全国でも比較的大きいブロックです。

「九州はひとつ」の合い言葉をもとに、お互いに切磋琢磨しながら農業クラブ活動に努めています。

(2)本年度九州学校農業クラブ連盟事務局校「鹿児島県立市来農芸高等学校」の紹介

本校は、鹿児島の薩摩半島に位置しており、今年創立82年を迎えます。農業経営科、生物工学科、生活科の3学科があります。文部科学省指定農業経営者育成高等学校に指定されており、1年次には全員寮に入らなければならない義務があります。電気スタンド以外の電化製品の持ち込みの禁止、タイムスケジュールも制限され厳しい生活を送っています。

学校特有の活動として、畜産部があり13年連続で畜産共進会1席を獲得。また、県内13農場しかない黒豚の指定種豚場に5年連続で認定を受けており、黒豚のさらなるブランド化に向けての活動や、廃れつつある県の伝統野菜に認定されている養母スイカの種子の保存をする活動、いちき串木野市に7社8蔵ある焼酎の原料となるサツマイモ「コガネセンガン」のウイルスフリー苗の提供などを通して地域の農業に貢献しています。

その他にも、青春市場 INドルフィンポートで農産物販売を行ったり、学校近くの重信川の愛護作業を実施したり、校内外でも活動を展開しています。更に南九州市川辺青の俳句大会で5年連続11回目の学校賞を受賞するなど、俳句・短歌にも力を入れています。

本年度九州学校農業クラブ連盟事務局をやらせていただいたことにより来年度の鹿児島県学校農業クラブ連盟の事務局、再来年度の全国大会のプロジェクト部門を担当するうえでいい経験となりました。

2 九州学校農業クラブ連盟リーダー研修会の報告

九州学校農業クラブ連盟では、7月25日(月)～27日(水)に2泊3日の日程で「第50回九州学校農業クラブ連盟リーダー研修会」を実施しました。

初日は、4月に熊本地震によって開催できなかった代議委員会、委嘱状授与式を行いました。その後、元地域おこし協力隊のお二人に『地域の宝探し』と題して講演をしていただき、2日目の視察研修、分科会に繋がる講演会となりました。県連紹介では、各県ユニークな紹介で大変盛り上がりしました。

2日目の視察研修では、入来麓武家屋敷群を視察しました。典型的な過疎の集落でしたが、歴史的な価値のある集落は地域の宝として再認識され、地元の小学生が観光案内してくれました。その姿を見て、私達農業高校生にできることは何かを改めて考えさせられました。

夕食後には鹿児島県日置市東市来町に古くから伝わる養母スイカを使ってスイカ割りを行いました。甘みの少ないことが特徴のスイカではありますが、みんなで美味しくいただきました。

分科会で各班、問題点について班の仲間と話し合い、熱い討議となりました。

最終日の3日目では、全体会で各県連会長から後輩達にメッセージを伝えて
を仲間と食べる参加者達

もらいました。リーダー研修会の大切や農業クラブへの想い、後輩へのアドバイスを熱く語ってくれました。農業クラブの遅々として改善できない問題点について共有し、それに対する取り組みを考える中で、元気をもらい、交流会の必要性を全員一致で確認できる会となりました。施設が小さい分、内容の濃い充実したリーダー研修会となりました。



入来武家屋敷群の入来小学生ジュニアガイド



養母スイカ



熱く語る各県連会長

3 分科会協議・全体会の報告

テーマ:「校内農業クラブ員が農業クラブを理解し、
一丸となって活動を盛り上げていくためにはどのようにしたら良いか」

(1)実態

- ア 各種発表大会の実施をしている
- イ ボランティア活動を行っている
(募金活動、環境保護活動)
- ウ 地域との交流活動を行っている
(出前授業、販売会の実施)
- エ 情報発信の幅が狭く少ない
- オ 農業クラブを理解していない
- カ 農業クラブ員全員が参加できる活動が
少ない



(2)問題点・実態から見えたもの

- ア 情報発信の少なさ
- イ 農業クラブの活動＝農業クラブ役員の
活動になっている
- ウ 各種発表大会などの活動なども一部
生徒しか参加しておらず、その内容や活
動について知らなかったり興味が無かつ
たりする
- エ 農業クラブ自体を知らない
- オ 農業に興味を持っていない



(3)問題点解決の具体的な取り組み

- ア 農業クラブを知る活動
 - ①先輩から後輩へ鑑定競技や各種発表大会等のアドバイスを。また、アドバイスをする機会をつくる。
 - ②1年次から農業クラブ活動に積極的に取り組む。活動を促すために、1年生に向け農業クラブの活動を発表する。(農業クラブ新聞、ポスター製作等)
 - ③農業クラブ役員が校内の農業クラブ員の実態を知るためにアンケートを実施する。アンケート結果を分科会などで他校、他県と比較することで実態がより分かりやすくなる。
 - ④リーダーシップを読む時間を設ける
- イ 農業クラブ員が参加する活動
 - ①ボランティア活動を行う(環境保護活動など)
 - ②農業クラブ員全員が参加できる活動を増やす。退屈な活動が多いので稲刈り競争などの体を動かす活動を取り入れる
 - ③九州全体で即売会の実施

各県各校の農産物を持ち寄り販売することで、各校の取り組みを知ることができる。また、地域の方々に農業クラブを知ってもらおうきっかけになる。

④他校との交流会

他校と意見交換をすることで様々な刺激を受けることができる。

⑤校内分科会の実施

校内で分科会を行うことにより、農業クラブ員全員が実態を把握することができる。また、各県連・各ブロック連盟で分科会を行うときに、より深い内容の分科会にすることができる。

⑥農業クラブの活動や行事、運営を教員主体から生徒主体に変える。

農業クラブ員が農業クラブ役員の仕事を体験することで農業クラブの関心が深まる。また、自主性を養うことができる。

ウ 農業クラブの知名度を上げる活動

①SNSによる農業クラブの発信

twitter、Facebook 等のSNSを活用することで若い人たちに農業や農業クラブを知ってもらおうきっかけになる。

②ゆるキャラの作成

農業クラブを親しみやすいものにする。



4 協議内容のまとめと今後の課題

農業クラブ員としての自覚が一部の生徒にしかなく、残りの生徒達の意識が欠如していることをクラブ員に理解してもらい、より活動を活発化していきたい。また、農業クラブ役員が農業クラブについて知らないことも原因の一つである。農業クラブ役員は農業クラブ員に教えてあげられる立場でないといけない。

(1) 農業クラブの運営や行事を見えるようにする。

教員主体から生徒主体に運営を行う。

(2) 農業クラブ役員だけの活動にせず校内で農業クラブ員全員を巻き込んで行う形にする。

クラブ員としての自覚をもってもらう。

(3) 情報発信

SNS を利用した若年層に分かりやすく見やすい形にする。

5 終わりに

これから農業クラブの活動を盛り上げていくには、農業クラブ員一人一人が農業クラブ員としての自覚と誇りが必要である。そのために、農業クラブ員が楽しいと思える活動、環境作りを企画、運営、実行、継続していかなければならない。